

# 3おーまー

ふおーさいと

東日本大震災特別編集版 Vol.2

## 始めよう

巻頭特集

仙台市の集団移転計画と  
まちづくり

被災現場で戦った  
地元建設社員肉親の手記

H T F O  
G I S  
2012 No. 56



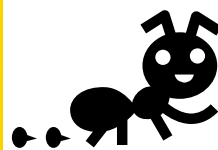
仙建協と市民みしなの情報マガジン

ふおーさいと  
**3おーまね**

東日本大震災特別編集版 Vol.2

CONTENTS

2012  
No.56



02

巻頭特集

「省エネ・創エネ」がキーワード

## 動き出した仙台の集団移転とまちづくり

対談

06

仙台市復興事業局

仙台建設業協会

局長

山田文雄氏 × 会長

河合正広

特別寄稿

09

## 被災現場で戦った地元建設社員 肉親の手記

～無視できない 建設社員の心身疲労～

13

「心の健康を考えよう」／宮城産業保健推進センター  
佐藤祥子 産業保健相談員 に聞く

14

再生へ一歩づつ…

## 復旧を果たした仙台市内の主要公共施設

17

## 仙建協だより

がんばろう東北!  
がんばろう仙台!

仙建協は、仙台の復興に全力で挑みます。

FROM EDITORS

## 福祉施設に寄付金

仙台市内12ヵ所を訪問

仙台建設業協会は2月22日、仙台市内の福祉施設12ヵ所に寄付金を贈呈しました。福祉施設の運営に役立ててもらおうと毎年続けている事業で、今年で19回目になります。

当日は、環境福祉委員会の委員と事務局が3班に分かれて市内の福祉施設を訪問して回り、1施設当たり5万円を寄付しました。

このうち、仙台市泉区にあるはまなす苑では、鹿郷文博委員長と三浦忠委員から、大松澤房子苑長に寄付金が手渡されました。大松澤苑長は、「毎年続けてもらえることは大変ありがたいです。関心を持っていただくことは、私たちにとっても励みになります」と感謝の言葉を述べていました。

寄付金を手渡す鹿郷委員長(右)と三浦委員(中央)





集団移転・区画整理が本格化

「省エネ・創エネ」が  
キーワード

# 動き出した仙台の 復興まちづくり

東日本大震災から1年10カ月が経ちました。これまでは市民の生活を支えるライフラインの応急復旧に始まり、主要な交通基盤や公共施設の本格復旧に重点が置かれていました。そしていよいよ集団移転や区画整理事業など新たな復興まちづくりが本格的に動き出すとしています。津波により甚大な被害を受けた東部沿岸部と丘陵部の新たなまちづくりを紹介します。

〔荒井東地区〕

- ①建物の高層化により敷地中央に広い空間を確保し地域住民との交流拠点となる開放型広場の整備
- ②太陽光発電を用いたエネルギーシステムの導入

荒井東 復興公営住宅イメージパース



# 生まれ変わる東部地域

津波で大きな被害を受けた東部地域は、安全な住まいの確保をはじめ雇用を支える新たな産業基盤の形成、市民の交流促進などを目的に新しいまちづくりを進めます。

復興計画に盛り込まれた土地利用構想では、港地区復興特区・農と食のフロンティア・海辺の交流再生の3ゾーンを設定しました。

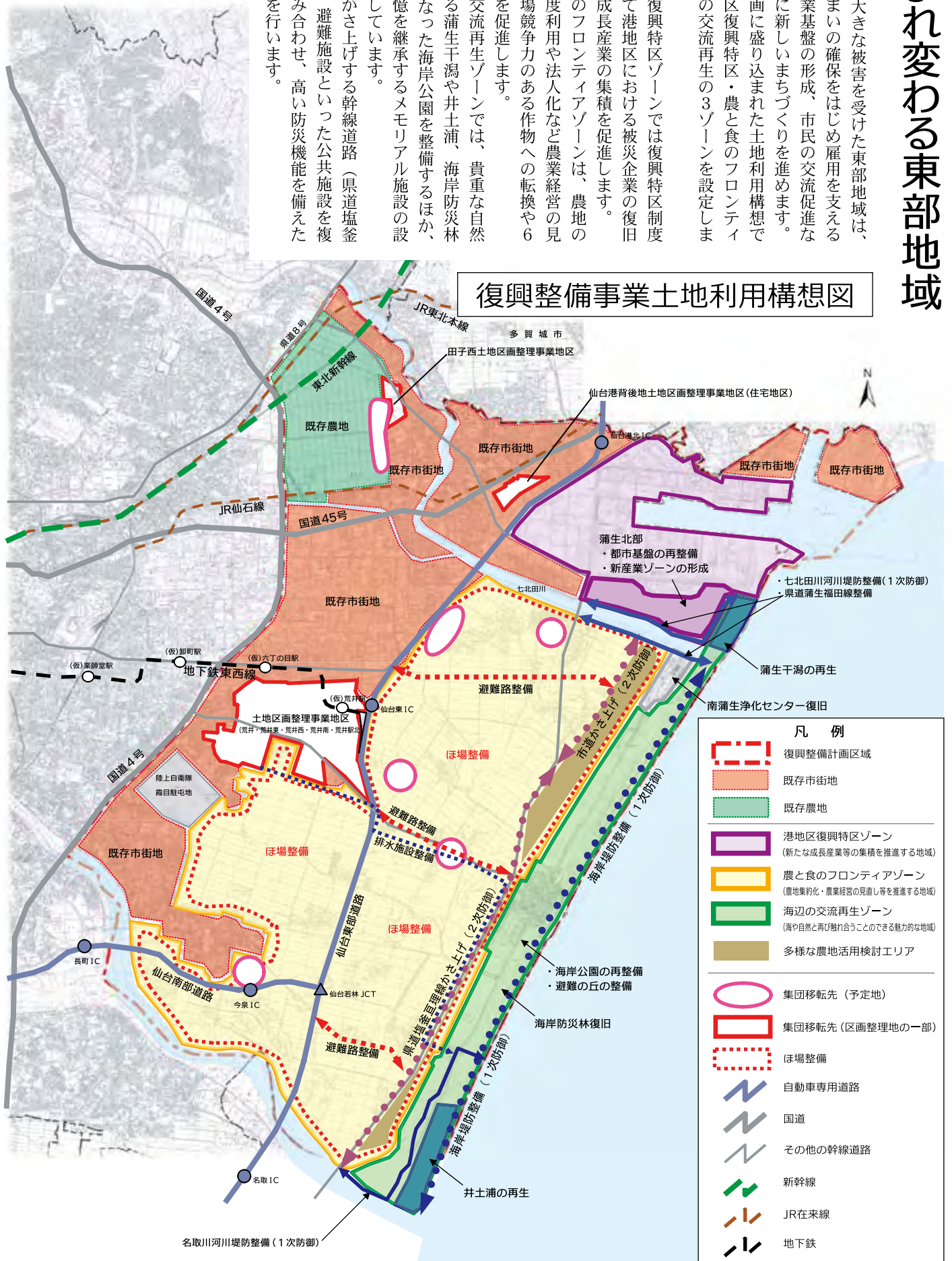
港地区復興特区ゾーンでは復興特区制度を活用して港地区における被災企業の復旧や新たな成長産業の集積を促進します。

農と食のフロンティアゾーンは、農地の集約・高度利用や法人化など農業経営の見直し、市場競争力のある作物への転換や6次産業化を促進します。

海辺の交流再生ゾーンでは、貴重な自然環境である蒲生干潟や井土浦、海岸防災林と一体となった海岸公園を整備するほか、震災の記憶を継承するメモリアル施設の設置も検討しています。

併せてかさ上げる幹線道路（県道塩釜亘理線）、避難施設といった公共施設を複合的に組み合わせ、高い防災機能を備えた施設整備を行います。

## 復興整備事業土地利用構想図





# 約1、560世帯の集団移転スタート

海岸線に近く、津波の浸水深が2mを超える災害危険区域の約1、560世帯が集団移転を計画しています。

移転先はすでに宅地造成が進んでいる荒井公共土地区画整理地区、仙台港背後地区、田子西地区、荒井東地区の土地区画整理事業地のほか、これから整備する土地区

画整理事業区域、さらに仙台東部道路に近接する地域で、盛土により安全性を確保した造成地を予定しています。

移転はすでに造成が完了した土地から順次行います。2012年度は荒井公共土地区画整理地区や仙台港背後地住宅地区、蒲生雑子袋地区の用地引き渡しが可能になり、14年度内にすべての地区で移転できる環境が整います。

エネルギー効率が高く災害時にも安心なまちづくりに対する社会的関心が強まる中、仙台市は復興まちづくりの方針の一つに「省エネ・新エネ対応型まちづくり」を掲げました。そのモデルとなるのが田子西地区土地区画整理事業です。

宮城野区の田子西地区土地区画整理事業は地権者で構成する土地区画整理組合で実施しています。面積は16・3ヘクタール。都市計

# エコモデルタウン構築へー田子西地区

仙台市はここをエコモデルタウンに位置付け、民間と連携しながら太陽光発電などを用いたエネルギーシステムを導入します。

これまでにNTTフアシリティーズ、国際航空、東日本電信電話の3社で構成する

地区名	区画数	面積(ha)	造成工事(年度)	移転開始
六郷地区	52	3.5	13~14	14末
七郷地区	36	2.7	13~14	14末
石場地区	12	0.5	13~14	14中旬
荒井公共区画整理地区	49	150	12(区画割)	12末
荒井東地区	55(協議中)	33.7	~14	13中旬
荒井西地区	協議中	46.5	13~	14末
荒井南地区	協議中	17.7	12末~14	14末
上岡田地区	66	4.5	13~14	14末
南福室地区	35	2.2	13~14	14末
雑子袋地区	5	0.2	12	12末
仙台港背後地住宅地区	19	260	12(区画割)	12末
田子西地区	70(協議中)	16.3	~13	13
田子西隣接地区	140	8.7	13~14	14末

土地区画整理により造成が進んでいる地区



田子西 復興公営住宅

田子西 復興公営住宅 イメージパース

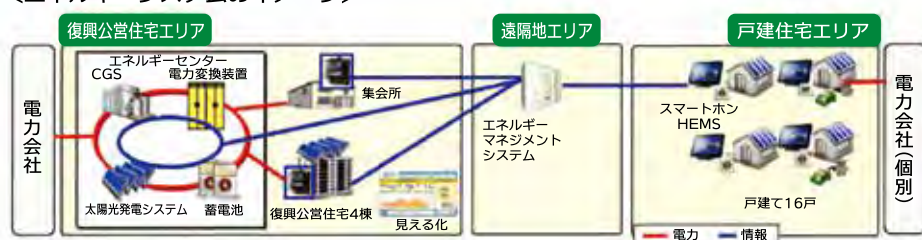
〔田子西地区〕

- ①中庭を中心に中層住棟を広場や通路でつなぐ分棟ネットワーク型住宅
- ②エコモデルタウン構想に基づく太陽光発電などを用いたエネルギーシステムの導入
- ③障害児親子通園施設の併設

〔標準住宅タイプ〕

入居世帯	1人以上	2人以上	4人以上
間取	<p>2K(約35㎡)</p>	<p>3K(約50㎡)</p>	<p>4DK(約75㎡)</p>

〔エネルギーシステムのイメージ〕



「仙台グリーン・コミュニティ推進協議会」を事業者に選定しました。

協議会は復興公営住宅(4棟、176戸)と戸建て住宅(16戸)を対象に、スマートグリッド通信インフラフェース導入事業補助金を活用し、住宅へのエネルギー供給、エネルギー・マネジメントシステム(EMS)の導入・運用を行うことで、非常時のエネルギー確保や、平時の高いエネルギー効率と経済性の両立を図る仙台モデルの構築を目指します。



# 新産業ゾーンを形成―蒲生北部地区

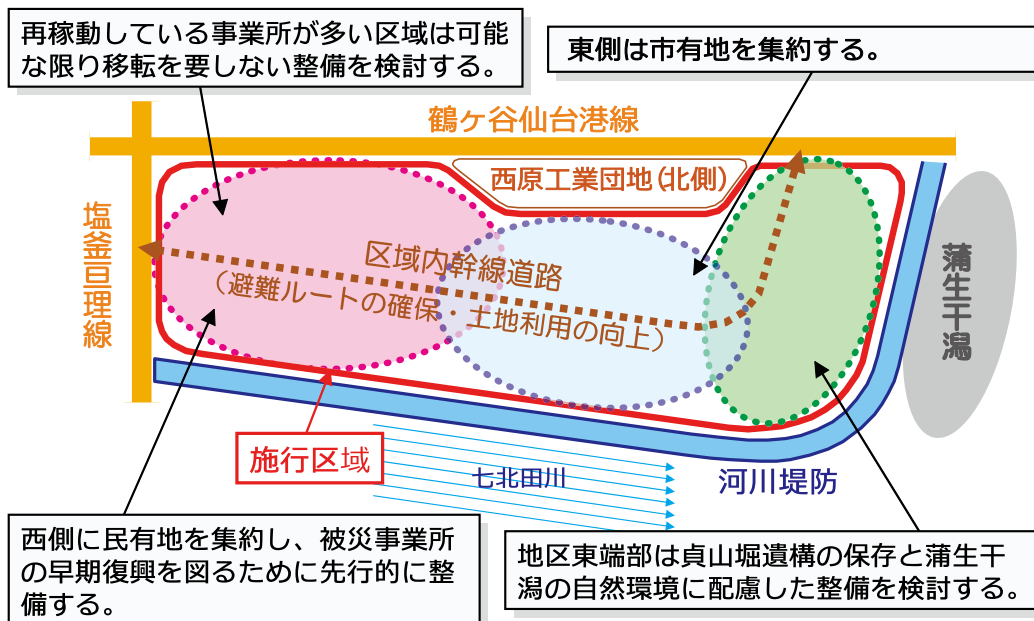
居住地の整備と併せて重要になるのが事業所の早期復興。その拠点として注目されるのが七北田川左岸の仙台港南側に位置する蒲生北部地区の再整備です。

被災前は工場や住宅が混在していました。被災後は同地区を災害危険区域に指定。住宅の建設を禁止し、新たに業務系用地として再生するため土地区画整理を実施します。

施行面積は約92・5ha。西側に民有地を集約し、被災事業所の早期復興を図るため先行的に整備するとともに、東側に市有地を集約します。

また、避難ルートの確保と土地利用の向上を図るため、地区中央部と東西に貫く幹線道路を整備するほか、東端部は貞山堀遺構の保存と蒲生干潟の自然環境に配慮

## 土地区画整理事業による再整備 整備方針



慮した整備を検討します。

11月1日に被災市街地復興推進地域を都市計画決定しました。今後は、13年3月に土地区画整理事業の都市計画決定を受け、13年中ごろの事業認可、15年度の工事着手を目指します。

# 公共事業で宅地復旧―西部丘陵地

東日本大震災で被害を受けたのは東部沿岸地域だけではありません。西部丘陵地でも地すべりなどにより5、080宅地が被災しました。

このうち広範囲わたって盛土が滑動崩落した造成宅地や、周辺に2次的被害がおよぶ恐れがある「がけ・宅地擁壁」などを対象に、国の補助制度を活用し市が公共事業

として復旧を進めます。12年度内に工事に入り、13年度で完了させる予定です。

一方、国の制度対象とならない被災宅地の復旧については市が独自に助成金制度を創設しました。すでに相談・受け付けを始めていて、これまでに250宅地以上の助成金の交付が決まりました。



写真：東北建設協会





■山田文雄 仙台市復興事業局長

東日本大震災からの復旧・復興事業が次々と進められる中、仙台市でもいよいよ沿岸部の防災集団移転、内陸宅地の復旧、土地区画整理など、復興まちづくりが本格的に動き出そうとしています。東北復興のモデルともいえる仙台的復興まちづくりはどのように進められるのか。かじ取り役を担う山田文雄仙台市復興事業局長と、復興を支援する河合正広仙台建設業協会会長が対談しました。

# ●自然エネルギー活用したスマートシティの形成 次世代型住環境を整備し 東北復興のモデル都市に

## 対談

大事なのはスピード感……山田局長

ー復興事業局設置から約10カ月が経過しました。

山田 事業局はさまざまな部署を合体させたまったく新しい組織です。職員約170人のうち他都市からの応援職員が41人、任期付採用職員も20数人おりまして、その中で進めていかなければならないという難しさがあります。

事業局の仕事は大きく3つありまして、沿岸部の集団移転、内陸部の復旧、それと被災者の生活再建支援という、ある意味で最も目に見える形での復興の取り組みを担当します。そのため、被災者や関係住民と意思疎通を図りながらだけスピード感を持って進めていくのが大きなポイントです。

河合 震災で壊れたものを片付けるところまでは順調にきましたが、被災者の中には工場を建て直してまで事業を再開することはあきらめたとおっしゃる

方々もいらつしやいます。衣食住まではなんとかするにしても、その先に、被災者が自活していくところまでうまくいくかどうかのポイントだと思います。前向きになっている方もいればそうない方もいて、一人一人会って復興の方針を決めるという事業局の仕事は大変だろうと思います。

山田 今、衣食住という話がありましたけども、実は復興に当たっての「いしよくじゅう」は「医・職・住」と書くのですよ。「医」は被災者の心と体をどうフォローしていくか、「職」は生活を成り立たせる上



■仙建協 河合正広会長

仙台市復興事業局

局長 **山田文雄氏**

仙台建設業協会

会長 **河合正広**

でいかに収入を確保してあげるか、「住」は住まいです。この言葉は阪神淡路大震災の時に神戸で使われ始めたのですが、私も同じ立場に立つてみてやはり同感です。

被災者の生活再建支援は、住居の見通しをつけてあげるのと同時に、安定的な収入を見つけてなければ住まいの確保にはなりません。また、被災者は震災で身内を亡くすなどして心にダメージを受けていますので、継続的にいろいろな形でフォローするなど、心の問題も含めて最終的にはどう自立していただく状況を作るかということに尽きると思いますね。

高齢者密集地はバリアフリーに

……河合会長

ー現在の東部沿岸地区のまちづくりの状況はどのようになっているのでしょうか。

山田 市全体で移転対象地区は1、500戸ほどあります。その地区の方々に住宅再建の申出書を出していただいております。すでに92割の方が提出済みです。いかに移転住民の意向を細かくみ取り手当てしてあげるかが大切で、こちら希望が分からない限り次のステップに進めないものですから、そういう意味では1つ山は越えたかなと思っています。

仙台市の集団移転については2つの特徴があります。1つは移転先の選択です。もともとあつた集落が指定された移転先で同じように再生するという「1対1」の移転ではなく、仙台市の場合は「複数対複数」です。どこで被災された方がどの移転先に移っても構わないのです。

もう1つは事業の速さです。通常、移転先の土地を取得し造成して家を建てるとなると3〜4年ほど掛かりますが、仙台市は荒井地区など、もともと進行していた土地区画整理事業保留地を移転先に選んでいるため非常にスピード感があります。そのため早く移住したいという希望者はそこを選択するということが可能なのです。現在、約50宅地について申



し込みをいただいて、年内にはある程度居住も決まるという状況になっています。

**河合** 沿岸部は比較的高齢者が多かったと聞いていますので、そういった方が自由に移転先を選んでいくと、似たような方々が集まり過ぎるのではないかと。そういう時に、町がバリアフリーやエコタウン構想などを踏まえたまちづくりをしていくというのでもいいのではないかと思います。

**山田** 今回の震災を契機に、地域の将来像を改めて考えざるを得ない状況が生じています。もともと沿岸部は高齢化が進んでいる地域でしたし、「自分たちが年を取ったらどういう暮らしをするか」というような話は、本当は震災がなくても近い将来に起こりうる潜在的な問題としてあったんですね。それが今回の震災で表面化し、被災者は「これから誰が親の面倒を見るのか」「親と子は一緒に住み続けるほうがいいのか、少し離れて住むのか」という将来に向けた生活環境の選択を余儀なくされています。長い目で見ればいつかは解決しなくてはならないさまざまなことが、今回の住宅の移転・再建を契機に整理されていく場合もあるかと思っています。

逆に、何もしなければ、恐らく将来町はお年寄りだらけで、日ごろの買い物もどうするかという話になってしまふ。コミュニティの維持という面では従来の集落をそのまま移すというのが良さそうなのですが、やはり広い視点に立ち、移転先に若者が多くいるといった生活環境をつくるのも大事だと思っています。

## 次代を考えた環境整備を……河合会長

**河合** それぞれの地区に、ある程度意識的にコンビニやスーパーなどを配置するとか。

**山田** 住宅が整備される地域には商業施設は進出するので、生活環境は大丈夫だろうと思っています。ただ、住民の方から「できるだけ海に近い場所に住みたい」という要望もあることから、市街化調整区

域の農地の一部を市が買い上げ、移転先とする場所もいくつか出てきています。できるだけ市街化区域に近い場所にしよう」と計画していますが、やはりそういった場所では相応規模の集落にはならないので、その中に商業施設ができるかどうかはなかなか難しい状況ではあります。

**河合** 次の世代のことを考えたまちづくりも必要になってくるのではないのでしょうか。例えば、店舗を直してもそこに住民がいなければ商売は成り立ちません。農家の方でも「1〜2年の間に復旧すれば、当然また再開したい」と言う方もいるのですが、年齢を考えると果たして本当にまたやれるのかなという気もします。「今の状況だからこそ頑張つてやろう」と意気込んでいる方をなだめるのも大変でしょうが、これからはもっと先のことを考え、若い人に継承されていくような形態とするほうがいいのではないかと思います。

**山田** 実は震災があつてひと月も経たないうちに、避難所に避難されている方々と今後のまちづくりについて意見交換をしました。最初のころはやはり非常に怖い目に遭ったこともあり、「もうこれをきつかに農業はやめたい」という声が多かったのです。ある方からは「通勤農業」という言葉が出ました。「住まいは安全な高台に確保して、少し離れた場所に通勤をするような感覚で農業をやってもいい」という意見や、「自分の農地をメガソーラーのような事業に使ってもいい」といったいろいろな意見が出ました。



仙台市復興事業局長室にて。大震災からの力強い復興に向け、双方の連帯と信頼関係の強化を確認しました

ところが1年ほど経つてアンケート調査をすると、今まで通り農業を続けたいという人が思ったより多く、本当のところはどうなんだろうとまだ読めない状況です。今まで1,000万円単位で何年もローンを組んで順次用意してきた農機具が津波で一度に全部流されたことが非常にショックで、それを全部買い、元通り用意することはまず不可能ということだったのでしょう。ところがさまざまな形で行政が農機具をリースしたり、復興のお手伝いもあつたりして、うまくいけば比較的早く作付けも行えるという状況になると「もう少し農業も継続していいかな」という気持ちに移つたのではないかと。

ただ、長い目で見た場合にそれが継続するのかという実際は難しいと思っています。そこで、何かうまい新しい農業の先行事例がいくつか出ていけば、それを見てこれまで農業をやってきた方もいろいろと状況が変わっていくのではないかと思いますね。

## 田子西地区をエコモデルタウンに

……山田局長

―田子西地区の区画整理事業ではスマートシティや自然エネルギーを取り入れるという方向性を出しています。今後のまちづくりに自然エネルギーはどう関わってくるのでしょうか。

**山田** 震災ではガソリンも重油も供給されず避難所でも明かりがないという場面がありましたので、震災を教訓にして非常時のエネルギーをいかに確保するかという観点はとても大事です。電力供給ルートが途切れた時でも天然ガスのパイプラインがあるなど、全体としてエネルギーの供給ルートを広域的なり複数持つことで、何かがあつた時にサポートできる体制を考えなくてはなりません。

そこで田子西地区では新しいエネルギーを活用するという計画を打ち出しています。非常時のエネルギー確保というのは田子西に限らず、市全体として備えておかねばなりません。そこで「エコモデ



ルタウン」として田子西地区を、そういった取り組みのモデル地区にしようという思いがありました。

―沿岸部が津波で被災した一方で、内陸部の住宅被害も多く出ています。

**山田** 全部で中規模以上の被害宅地が5,080宅地ありました。昨年は結局、国が用意していた復旧制度が使えないということがはつきりしたのが実情だったのです。災害があった時は国や自治体が被害箇所を復旧しますが、実は、それはがけ崩れのような自然災害が対象でしかなく、人工的につくった造成団地は対象ではなかったのです。

そこで仙台市が国に相当強く働き掛けをしてできた制度が「造成宅地滑動崩落緊急対策事業」です。そのおかげで全体の被害件数の7割近くが公共工事での復旧が可能になりました。

残りの3割については、個別の擁壁が崩れたというような宅地全体が滑動していない被害なので、複数の宅地をまとめた工事発注はせず、独自の支援策として市が9割ほど補助金を出してそれぞれ個人で復旧をしていただくという形で進めています。

公共工事の方はすでに約240地区すべての測量・設計に着手しました。そのうち90地区で10月までに設計が終わっています。今年度内にすべての地区で工事着手するのが目標です。なぜ年度内かといいますが、実は国の補助金の期限になっていまして、マンパワーの面からも全体の工事のボリュームから見ても、スケジューリング的に大変厳しい状況と感じています。

## 地元企業の復興が大切……山田局長

―産業全体の復興のビジョンはどうお考えですか。

**山田** 大きい視点では、阪神淡路大震災の神戸の反省もあって、地元企業にお金が回らないのはなんとか避けようというのがありました。建設業もそうですが、被災者の就労に先が見える状況をつくってあげるには、やはり地場の中小企業が元気になって地

域経済が回復しないといけません。総額100億円という経済復興のための予算編成も、企業が継続していくことを念頭に置いた、長い目で見た支援策としてどう組み立てていくかがポイントです。

もう一つは、やはり東部の新しい農業が一番目に見える新しい復興の取り組みになるだろうと。県で民間企業の漁業参入という話がありますが、農業も同じで、いかに民間企業が関わってくるかが非常に大きなポイントになると思います。そこがうまくいけば、東部地域の方々が新しい形で再生していく大きな要素になると考えています。

**河合** 局長のおっしゃるように、これからは新しい農業の形が必要になってくるのかと思います。やる気のある若い人の中には、除塩をしなくても行える新しい農法などを模索している人たちなどもありますよね。そういう人たちが、津波が来ても負けないような新しい形の農業を構築していくのではないかと思いますね。

**山田** 実は、他の業種の企業が農業に参入するとなれば、建設業が一番可能性があると思うのですよ。震災の前から建設業の今後の生き残る道という話はありませんが、土木技術というのは、機械操作も含めて農業に馴染みがある分野なのではないかと思っています。

**河合** 新しく区画整理する蒲生北部地区92・5畝は新たな産業集積地域をイメージしていますね。

**山田** 蒲生北部そのものが住宅の新築を禁止する災害危険区域に指定しており、集団移転の対象地区となっています。集団移転後にもとの土地は仙台市が買い上げますから、結果的に蒲生北部は住宅がなくなつ仙台市有地が点在するという地域になってしまいます。同時に、もともと工場や流通倉庫などの多い工業系の地域ですので、集団移転後の土地をどう再編していくかを考えました。基本的には産業誘致をしていきますが、今のままですと、土地利用が混在する状況になってしまいます。そこで産業誘致に

合わせて住居と道路などの周辺環境も整備できるように、区画整理事業が最適と考えました。ただしこれは、実質的に集団移転のメドが付いてからスタートという流れになるのかと思いますね。

## 建設業と連携の必要性強く……山田局長 長年の信頼関係こそ重要……河合会長

―今後の仙建協との連携についてお聞かせください。

**山田** 今まで役所と建設業は発注者と受注者の関係であって、厳密に立場をわきまえようという意識があったと思います。ところが今回の震災を経て、復旧・復興には地元企業の力を借りないとわれわれは全然動けないということがはつきり分かりました。

それがきっかけになって、建設業とは「これからは一緒に手を取り合って復興していくんだ」という気持ちでお付き合いしなければいけないと強く思いました。どこかできちんとした立場の線は引かないといけないのですが、お互いに協力して進めないと復興は成し遂げられないという気持ちですが、だいぶ役所の中でも強くなってきましたね。

**河合** 会員は震災後すぐに区役所に飛んで行くなど活動を開始しましたが、それからしばらく経つと、仕事は増えていくのに代金については支払いどころか契約額も決まらない、という不安を抱えたまま作業を続けていました。

そのような時、役所の方の「とにかく何とかします」と言ってくれた言葉を信じて、「この人がこまめに踏み込んで話してくれるのなら」と不安を打消し、「われわれも最後までやるしかない」と考えるようになりました。やはりこのあたりは信頼関係ですよね。もちろんそれぞれの立場で言い合うこともありましたけども、目標への気持ちはお互い同じだという連帯感と、信頼関係が感じられました。これから復旧・復興に向けて会員が丸となってまい進していきたいと思っています。

**山田** よろしく願います。

**対談** 仙台市復興事業局 局長 **山田文雄氏**  
仙台建設業協会 会長 **河合正広**



## 気遣い嫌う主人の性格慮り 家庭では努めて日常装う

●主婦 伊禮貴子さん

発災時は職場である富谷町の保育所にいました。園児たちの昼寝時間がそろそろ終わる頃というとき、あの、強い揺れが襲いました。急いで園児を園庭に避難させ、非常用品を運び出すなどの対応に迫られました。その間、主人が石巻浄化センターの現場にいたことは前もって分かっていたので連絡したのですが電話が繋がりません。そのうち私は、園児を迎えに来た保護者たちの応対にかかりきりになってしまったので、しばらくは津波のことは知りませんでした。保護者たちの会話から、大津波が沿岸部を襲ったという情報は耳にしましたが、よもやあのような惨事になつていようとは、夢想だにしませんでした。確実な情報が分かっていれば、石巻にいる主人が心配で相当気を揉んだに違いありません。泉区の家に幸い被害はありませんでしたが、停電した真つ暗な自宅に主人が帰宅した

のは深夜1時ぐらいでしたでしょうか。ようやく無事な顔が見られてほっとしたのもつかの間、石巻の惨状を聞かされ、恐怖で体が震えたものです。

翌日早朝に主人は出社しましたが、思えばこれから数カ月、主人の不眠不休といつてもいい過酷な日々が始まりました。この日は市内の道路の応急復旧、13日は気仙沼の国道45号の道路啓開、数日後からは仙台港背後地の道路啓開と、公共機関の要請に応じて各地の初動対応に当たっていたようです。必然、帰宅時間は連日深夜に及びました。午前2時、3時というのも珍しくありませんでした。普段は磊落な主人ですが、さすがに疲労の色は隠せない様子でした。津波被災地の惨たらしい状況を苦痛に顔をゆがめながら家族に話してくれたものです。家で仕事の話はめったにしない主人が「どこから手を付けていいのか分からない」と嘆息交じりに呟いていたぐら

いですから、よほどのことだと察しました。そんな主人に劳いの言葉の一つもかけてあげられなかったことを、いまでは少し後悔しています。ですが、あまり他人から気を使われることを良しとしない主人の性格に配慮し

て、家庭では努めて日常を装いました。節水や火起こしなど、子どもたちも積極的に協力してくれました。

ライフラインを整備し、社会の共有資産を築きながら国民の生命・財産を守る産業として、主人の仕事と建設業にはかねてから敬意を抱いていました。震災復旧に従事する連日の姿を見て、地域に不可欠な存在であることを再認識しました。奥田建設で作業ボランティアを募っていると聞いたときには、迷わず子どもたちにも参加させました。震災に立ち向かい、勇猛に働く父親や業界仲間の勇姿は子どもたちの目にしっかりと焼きついたに違いありません。

奥田建設 土木部工事部長  
伊禮純二さん(53)の妻

自ら被災しつつも、がれきと戦った  
地元建設業の理解向上を切に願う

●大学2年生 長谷川愛さん

「大切なことほど、普段気が付かない」。私にとって、東日本大震災はそんなフレーズを

発災直後から、仙建協会員企業各社は被災地に駆け付け、道路啓開や応急復旧に当たりました。とりわけ未曾有の惨事となった沿岸部では、酸鼻きわまる阿鼻叫喚の現場で皆が泣きながら作業に明け暮れたといえます。彼らを家族はいかに支えたか。銃後を守った肉親たちの手記！

## 特別寄稿

# 未曾有の被災現場で戦った





この身で実感した経験でした。

震災当日、私は自宅にいました。自動車教習所に通いながら、大学入学を待つばかりという平穏な日々。日常は揺ぎ無く、不安などありませんでした。

そのような時期に、東北を激しい地震が襲いました。2日前にも地震がありました。今回はその比ではありませんでした。とりあえず、昔学校でやった避難訓練のように部屋の机の下に退避。地震直後は携帯やメールが混雑する事は学習済みでしたので、すぐに会社にいた母親にメールしました。

その後両親と弟と私、家族4人が家にそろったのが午後6時頃。絶え間ない余震と電気、ガス、水道など当たり前のものが使えなくなり、不安な一夜を過ごしました。

震災の動揺が収まらない中、翌日から父や祖父は災害対応に当たっていました。例えば大雨の時は水を防ぐため土嚢を積んだり、大雪の時には朝の通勤、通学等、市民生活に影響が出ないよう除雪作業をしたりと、私が寝床についている時間でも出勤していたのを思い出します。

後で聞いた話ですが、津波で流された人を救助するための道路啓開を会社で請け負っていたようです。仕事とは言え、自身も被災する中、遭難者救出のため尽力した父や祖父、従業員の方々には地域住民の一人として頭が下がるばかりです。このような影の努力を、一般の方にもっと知っていただければと思います。

そのような状況下で私も「何か役に立ちたい」と思い、炊き出しの手伝いをしました。震災直後、電気もガスも止まっていたので、スーパージなども閉まっていたので、食事を持たずに仕事に来る社員もいました。そのため

# 地元建設社員 肉親の手記

会社で食事を用意し、作業に従事してもらっていました。

私は重機も使えないし、無力だけど、食事がいらなければいけないし、手伝いを志願しました。どのくらい役に立てたかわかりませんが、おいしそうにおにぎりを頼める従業員の方の



表情を見て「私でも役に立てるんだ!」と勇気をもらいました。

バブル崩壊後、公共事業は無駄使いの温床だと思われがちで、建設業に対するイメージは必ずしも良くありません。確かに見通しが甘く、無駄な事業もあったかもしれませんが、インフラは日常生活を営むために必要不可欠なもの。そしてそれを造り、維持し、建て直すのが地域の建設業者であり、そこで働く人

です。

父と祖父が建設会社の経営者だからかも知れませんが、建設業は災害時もそれ以外の時も人々の暮らしを影ながら支える大切な仕事だと思っています。子供たちには一般的なイメージに捉われず、そこで働く人たちを見て、話を聞き、社会の役に立つやりがいのある仕事だと感じてほしい。教職を目指す者として、建設に携わる身内を持つ者として、切に願います。

長谷川建設 社長・長谷川幸久さんの孫  
泉工務店 社長・長谷川淳さんの娘

夢の新築マイホームが壊滅するも  
夫の会社の励まし胸に再建誓う

●主婦 佐藤裕子さん

青葉区中央にある損保会社の事務所で勤務中に、あの強い揺れに見舞われました。書棚から書類や備品が大量に落下し、事務所にいた約100名のスタッフは一同騒然となりました。私もすぐ主人に連絡しましたが電話が繋がりません。3時30分頃に帰宅許可が出て、同じ方面の社員の車に同乗して家路を急ぎました。車中、テレビで津波のことを初めて知りました。津波が雲霞のごとく仙台湾沿岸を襲撃する恐ろしい光景でした。自宅は仙台東部の蒲生です。家族のことが心配ですが渋滞で車は動きません。気を揉みながらもこの間、奇跡的に松島の現場にいた主人と連絡が取れ、

子供たちも、通学している中野小学校屋上に避難していると父兄仲間との連絡で確認できたことは幸いでしたが、自宅のことはもはや観念しました。

主人とは夜11時過ぎにようやく仙石線高砂駅で会うことができました。すぐ主人の車で中野小学校に向かいましたが、七北田川の堤防が決壊し、進路には一面の冠水とおびただしい津波漂着がれきで塞がれていましたのでそれ以上進めません。この日は車中泊を余儀なくされ、漆黒の闇の中で恐怖に震え、不安な夜を過ごすことになりました。

一家で無事再会でき、自宅に向かうことができたのは発災から3日目くらいでしたでしょうか。築半年の夢のマイホームは、無残な姿で建っていました。壁や窓は破壊され、2階天井付近まで浸水しており、室内はがれきや泥でめちゃくちゃでした。もはや涙も出ませんでした。しばらくは一家で呆然と立ちすくんでいたと記憶しています。

主人は翌週半ばあたりから出勤しました。松島の現場には行けないため、数日は顧客や社有ビルの被害点検や応急対応に当たっていたと聞きます。そのうち津波被害地のがれき撤去が始まり、主人も沿岸部の荒浜地区に向くようになりました。以降数カ月は休みなしの作業が続きました。荒浜はいわば隣町です。自らも家を失いながら日々、酸鼻きわまる現場でがれき撤去に挑む主人はどんな心境だったのでしょうか。普段、家で仕事の話はしない主人ですが、日を追うごとに元気がなくなっていくように見受けました。きつと心身ともに疲労していたに違いありません。作業着がいつもより汚れて帰宅した時などは、現場の凄惨さが窺えるようでした。私はできるだけ聞き役に徹しましたが、いくらかでも

救われたでしょうか。

発災直後から、深松組のご厚意で、社の管理する共同住宅にお世話になって生活しています。以来、深松社長はじめ社員の皆さん、協力会社の方々にも励ましていただきました。実は結婚するまで私も同社の社員でしたので、この建設業特有の仲間意識、団結力の強さが懐かしいやら嬉しいやら、とても感謝しています。

主人は意志の強い性格で、常に判断が求められる建設業は、天職だと思います。責任感も強く、仕事にかける真摯な姿勢はかねてから尊敬していました。少し余裕が出てきた頃、主人は蒲生地区の子供たちの野球場にと、がれきを寄せネットを張って小さいグラウンドを拵えました。主人にとっては「朝飯前」のような仕事でしょうが、津波被害で練習場を失っていた野球少年たちは大喜びで、我が家の子供たちにとっても鼻が高い、自慢の父親と映ったようです。

深松組 建築課主任  
佐藤誠さん(42)の妻

## さすがの夫も疲労の色は隠せず 水、ガス不自由な中、体調管理に苦慮

●主婦 鈴木百合子さん

あの日は子どもが通園している幼稚園の謝恩会に出席していました。そろそろ閉会という頃でした。突如、凄まじい揺れが襲いました。園舎が暴れるように激しく揺れ、書棚の絵本は全て落ちてきました。父兄は皆子どもを抱いて落下物の危険の無い、教室やホール中央に固まっていました。主人が仙台市中心部の現場にいることは承知していました。倒壊し

た建物の被害に遭っていないかと心配で仕方ありませんでしたが、幾度かけても電話が繋がらず、子どもらとともに不安な時間を過ごしたものです。

泉区南光台の家屋に幸い被害はありませんでしたが、落下物が散在して家の中はめちゃめちゃでした。奇跡的に通話できたのか、メールだったか、いまでも記憶が定かでないのですが、夕方頃に主人の無事が確認でき、午後6時くらいに主人は帰宅しました。後日知人などの話と比較すると、主人の帰宅は早めだったようです。それでも市内は渋滞のため、徒歩で帰ってきたとのこと。無事な顔を見てほっとしたあまり、全身の力が抜けてしまったのを覚えています。

主人の勤務する赤坂建設は、仙建協災害応急措置協力会の泉区隊長でしたので、主人も翌日早朝から出勤し、区の要請で法面崩壊や道路陥没箇所の応急復旧に対応しようです。津波被害地の対応に向くようになつたのは4月上旬からではなかったかと記憶しています。以降長期にわたって沿岸部のがれき撤去作業が続きました。

目の当たりにした現場は凄惨な光景で、精神的にも辛かったはずですが、普段から家庭で仕事の話はせず、口数も少ない主人ですから、この非常事態とはいえ例に漏れず、ほとんど現場の話はしませんでした。ただ、さすがに疲労の色は見て取れました。

ですからせめて家にいるときは安心して欲





しいと願ひ、普段どおりに振舞いました。食事水も不自由ながらなんとか凌いで、元氣な体で現場に向つてもらおうと努めました。氣の利いた言葉の一つもかけられませんでした。が、いつも心の中では「体に氣をつけて頑張つてほしい」と祈っていました。

主人は元、營業の仕事をしていたのですが、かねてから土木の仕事が好きだったらしく、資格を取つていまの会社に転職しています。それだけ主人が情熱を注ぐ仕事ですから、私も建設業には尊敬の念を抱いていました。この震災を通して、あの壯絶な現場で自衛隊や県警、消防などと同格の活動をしたわけですから、改めて偉大な仕事だ、地元にかけての無い産業であると認識を強くしました。

これから被災地の本格復興が始まると聞きます。主人も多忙な日々が続くことでしょう。災害に強い新たなまちの早期実現を願つて止みません。

赤坂建設 土木部課長  
鈴木貴紀さん(40)の妻

## 地元建設業の父は私の誇り 私も将来は世の中の役に立つ人間に

●中学2年生 米田百花さん

お父さん、お疲れ様。いつも私達家族のために頑張つていらっしゃるんだよね。感謝してます。ありがとう。

お父さんは工事のお仕事なんだよね。道路を舗装したり、作ったり。事務所の中の仕事もあるみたいだけど、一番は現場。暑い日も寒い日も外で働き、汚れて帰ってくる。きつと大変な仕事なんだろうな。

特に去年の震災の時は大変だったよね。午



後、私は教室で授業を受けてた。「ガタガタ」と机が揺れ始め「地震だ」と思つたら、「ドーン」とすごい揺れ。思わず机の下に隠れたよ。その後は校庭へ避難。電氣も消えたから不安だったけど、お母さんが学校に来る用事があり、すぐに再会。安心したよ。

落ち着いてきた頃、お父さんの事も氣になったので聞いたら「無事だよ」って。2日前の大きな地震の直後、携帯が繋がりにくくなつたからすぐに電話したんだよね。

お父さんが会社から帰つて来たのは確か夜8時ごろ。真つ暗な中帰つてきて少しびっくりしたよ。

電氣もガスも水道も止まつたけど、次の日にはお父さん、会社に行つてたよね。正直、家の方も大変だったの。「こんな時も仕事なの」と思つたけど、「こんな時だから」なんだよね。だって地震や津波で建物が崩れたら、

直すのはもちろん、取り除くのも重機を使う建設会社だもの。お父さんの仕事がどんなのか詳しくは知らなかったけど、災害のときに絶対必要とされる仕事なんだって事は私でも想像できた。だから何も言えなかった。

お父さんは津波が来た若林区の荒浜で道路のがれきを片付ける仕事をしてたんだよね。緊急車輛が通れるようにするために。それで警察や消防の人が行方不明者を探す事ができたんだから本当、重要な仕事をしてたんだと思う。

後で写真を見たんだけど、すごいがれきの山だった。満足に食事も取れず、体力的にもキツかった上に、余震も続いてたから精神的にも大変だったと思う。

でも、家に帰つて来てもいつもと変わらずへらあゝと明るかったよね。お店はやってないし、テレビでは毎日津波の映像が流され、不安だったけど、普段通りのお父さんを見て「なんとかなる」と思えた氣がする。

私は今、中学2年生。そろそろ自分の将来について考える時に来てる。まだ先の事で分からないけど、私は将来獣医になりたいと思つてるんだ。

「ペットブーム」なんて言われて久しいけど、無責任な飼い主に捨てられた犬や猫は保健所に持ち込まれ、引き取り手がない場合、安楽死させられる。許せない。人間も動物も命は平等だし、動物だって幸せになりたいはず。だから動物に関わる仕事に就いて、犬や猫や人間以外の他の生き物を幸せにする仕事をしたいと思つてるんだ。

というわけで、私も世の中の役にたてるよう頑張ります。これからよろしくね。

後藤工業 工事部課長  
米田千秋さん(49)の娘

東日本大震災は、私たちの暮らす仙台に大きな被害をもたらしました。それから1年半以上が過ぎましたが、被災に伴うつらい体験を思い出し、今後の生活への不安などを抱えている人もいます。復旧・復興工事に携わる建設業の人たちの心身の疲労も無視できません。自らが被災しながらも復旧作業に従

事し、復興工事が本格化する現在は休日返上で業務量の増加に対応している人もいます。よう。こうした状況の中、心身に不調をきたす人が出てくるのが心配されます。そこで今回は「心の健康」をテーマに、宮城産業保健推進センター産業保健相談員の佐藤祥子先生にお話を伺いました。

## 震災後の心身の不調について、実際にどのような相談がありますか。

震災から1年半以上が過ぎ、相談内容も変化してきています。今後の生活に対する見通しが立たず、この先どうしていけば良いのかといった経済的な問題を含めた不安からくる不眠や気分の落ち込み、生きる気力の低下などを訴えられる方が増えています。公的援助、特に医療費の打ち切りへの不安も多いですね。さらには行政の対応の不平等感に伴う怒りや不満のほか、人間関係の悪化からくる不信感などさまざまです。

## —このような心の不調に向き合うために、自分自身ができることや心掛けることはありますか。

難しいですね。自分の心掛けや気持ちで解決できる問題と、原因は分かっているけれどもその原因が個人で解決できるものではない問題であるなどさまざまで、本当にケースバ

イケースです。その人にとって不快と感じることはすべてストレスであり、ストレスが高じると心身の不調

いてもらいましょう。自分一人で悩まないことです。

# 心の健康を 考えよう



となつて現れてくることもあります。ストレスの原因となつていることを取り除くことが一番ですが、なかなか簡単にはいきません。問題解決ができるかできないかの前に、自分の心の中にある思いを言葉に出すこと、気持ちの許せる人に話を聴いてもらうことです。自分で嫌だ、不愉快だと思ふことは心のゴミです。ゴミは溢れる前に捨てましょう。捨てる場所（人）がない人は、電話相談や心の相談の専門機関を利用して話を聞

と。周囲の人はどういった配慮が必要でしょうか。

悩みや不安は一人一人違い、ケースバイケースで配慮していかねばなりません。周りの方々は感情移入しすぎることなく、客観的な目で何が心配で悩んでいるのかを聞いてあげてください。どんな小さなことでもその方にとっては大変な悩みなのだというのを理解して関わる必要があります。

職場としては、過重労働などの心配も出てきていますが、心の健康問題に対応できる環境づくりにはどのような工夫をしたらよいでしょうか。

職場の中には、自分自身も被災しながら仕事に追われて疲れている方

## —ストレスの軽減法などはあるのでしょうか。

運動や音楽などの趣味に心を移し、気分を切り換えるということもありますが、やはり心の中を話す場所を持つことが大切です。さらには、自分とはどんな人間であるかを知っておくことが大切ではないでしょうか。物事の受け止め方は十人十色です。自分にかかるストレスにいかに対処していくのが良いかを考え、自分に合った行動

や、当時の惨事のことから離れず、今でも悪夢を見て安眠できないこともあるという方もおられると思われます。仕事が忙しい、休暇も十分に取れない、といったことで心身ともに疲弊してしまう人も出かねません。こんな時、職場で配慮することは休みの取り方を工夫することです。上司や先輩が率先して休みを取り、部下や後輩が自分も休みを取っても良いのだなという気持ちになつてもらうことです。家族や友人と過ごし、自分の日ごろのストレスを解消する時間をつくることは、心の元気がつな갑니다。

## —職場のメンタルヘルスといわれていますが、普段からのコミュニケーションの良さが大切ですね。

そうです。普段から良好な人間関係が築かれていれば、何か悩みがあったり、困ったことがあった時、相談してみようという気持ちになります。常にお互いあいさつや声掛けをし、「何かあったら話を聴くことはできるから声を掛けてよ」「一人で問題を抱え込まないで」という意志表示をしておくことです。このような職場ならパワーハラスメントもおこらないのではないのでしょうか。笑顔のある、楽しく明るい職場づくりが大切ですね。

—どうもありがとうございました。



再生へ一歩ずつ…

# 復旧した仙台市内の主要施設

from **3.11** to **REBORN**

## 1<sup>st</sup> Location 仙 台 駅

仙台駅は1日平均7万人以上が乗り降りする東北最大のターミナル駅です。東北新幹線、東北本線、仙山線、仙石線、常磐線、仙台空港アクセス線、阿武隈急行線の各列車が乗り入れする重要な交通拠点であるとともに、駅2階部分のペデストリアンデッキは待ち合わせや憩いの場として、隣接する商業施設は東北文化の発信基地として、全国の観光客はもちろん、地元仙台市民から大変愛されています。

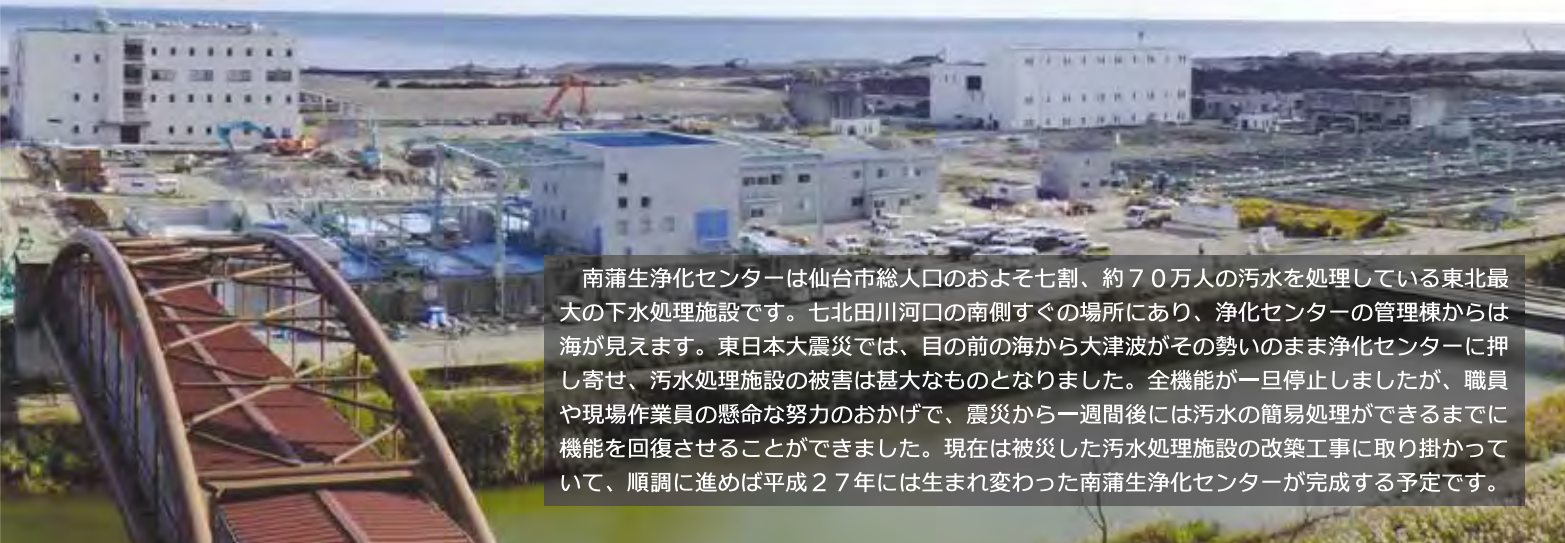


東日本大震災の際には、新幹線ホームの天井が広範囲で剥がれ落ちる建物被害、津波による駅舎の流出被害など大きなダメージを受けて全線で営業運転を休止。復旧工事が急ピッチで進められ、震災発生から50日目の4月29日、東北新幹線が全線開通しました。しかし、沿岸部の一部在来線は現在も不通のままで、代行バスで対応している状況です。鉄道は国民生活を支える大切な社会インフラの一つ。一日も早い全線復旧が望めます。(平成23年4月上旬に撮影した工事中の駅舎)



天井が落下した新幹線ホーム (JR東日本提供)





南蒲生浄化センターは仙台市総人口のおよそ七割、約70万人の汚水を処理している東北最大の下水処理施設です。七北田川河口の南側すぐの場所にあり、浄化センターの管理棟からは海が見えます。東日本大震災では、目の前の海から大津波がその勢いそのまま浄化センターに押し寄せ、汚水処理施設の被害は甚大なものとなりました。全機能が一旦停止しましたが、職員や現場作業員の懸命な努力のおかげで、震災から一週間後には汚水の簡易処理ができるまでに機能を回復させることができました。現在は被災した汚水処理施設の改築工事に取り掛かっていて、順調に進めば平成27年には生まれ変わった南蒲生浄化センターが完成する予定です。



夢メッセみやぎは産業の創造、発信、交流の拠点を目的に建設された東北最大級の大きさを誇るイベント会場です。建設当初から様々な催し物を通して、東北地域における経済・文化の活性化に大変貢献してきました。

東日本大震災の津波被害を受けてから一年以上たった現在は復旧工事を終え、東北復興のシンボルとして再生し、震災前同様に経済交流や娯楽イベントの場として活気を取り戻しています。



震災直後。敷地・建物には津波の傷跡が色濃く残っています



押し寄せる津波から屋上に避難する職員や作業員たち。津波が引いた後、付近には打ち上げられた3mのクジラもいました（仙台市提供）



from 3.11 to REBORN

4<sup>th</sup> Location **せんだいメディアテーク**

せんだいメディアテークは仙台市民図書館をはじめ、アート向けのイベントスペースなどを備えた複合型文化施設です。施設内部は鉄骨を組み合わせた筒状の柱が階層を支える独特の構造で、外観も全面ガラス張りというとても近代的な建物です。映画祭や演奏会、シンポジウムなどさまざまなイベントが開催され、年間約100万人が利用する仙台市を代表する建物の一つです。

東日本大震災とその後の余震によって7階吊り天井が落下、市民図書館の本が散乱、構造ガラスの破損など大きな被害を受けて全フロアを閉館。建物の安全確認作業と応急修繕を進める間、建物の外に開設した臨時窓口で本などを貸出し、震災で不安を抱える市民の心を和らげました。震災から約2ヵ月後の5月3日から段階的に再開し、翌年1月27日に全館オープンとなりました。



天井落下で使えなくなった7Fフロア  
（せんだいメディアテーク提供）



屋外に開設した臨時図書館  
（仙台市民図書館提供）



# 一般社団移行へ定款変更案承認

## 12年度臨時総会

仙台建設業協会の2012年度臨時総会が11月20日、宮城県建設産業会館で開かれ、一般社団法人への移行認可申請を行うことが承認されました。12年度中に一般社団法人への移行認可を宮城県知事に申請する方針で、13年4月1日の一般社団法人移行を目指します。

仙建協では公益法人改革に伴い一般社

団法人への移行準備を進めてきました。このほど定款変更案が固まり申請準備が整ったことから、臨時総会を開いたものです。

議事では、定款変更案や公益目的支出計画案などを盛り込んだ議案を全会一致

で承認しました。

臨時総会に先立ち、河合正広会長は「復興・復興工事が本格化する中、労務や資材がひっ迫する大変な状況にあります。協会でも発注当局と連絡を密にし、より良い方向に進むよう努めているところであります。今後とも会員の皆さんの協力をお願いします」とあいさつしました。

新しい

顔ぶれ



(権利行使者変更年月日)

2012年4月24日

赤坂建設株

代表取締役副社長 佐藤 渉

2012年8月22日

東北グレイダー株

代表取締役 石井 浩一

2012年10月26日

株日啓工業

代表取締役 長田 真和

2012年11月2日

仙舗建設株

代表取締役 加瀬 康弘

- 5日 第10回正副会長・土木・建築・舗装委員長会議(会長室)
- 12日 第2回建築委員会(会長室)
- 13日 仙台労働基準監督署・労安委員・安全指導員の意見交換会(2階会議室)
- 18日 第2回舗装委員会(会長室)
- 20日 第11回正副会長・土木・建築・舗装委員長会議(会長室)
- 24日 損壊家屋解体撤去班「運営会議並びに災害防止協議会」合同会議(2階会議室)

### 10月

- 2日 平成24年度安全大会(1階大ホール)
- 3日 第2回土木委員会(会長室)
- 3日 第12回正副会長・土木・建築・舗装委員長会議(会長室)
- 12日 仙台労働基準監督署・仙台市合同安全パトロール(市内)
- 17日 第13回正副会長・土木・建築・舗装委員長会議(会長室)
- 31日 第3回舗装委員会(会長室)

### 11月

- 8日 第14回正副会長・土木・建築・舗装委員長会議(会長室)
- 9日 常任理事会(2階会議室)
- 9日 第123回理事会(4階第2・3会議室)
- 20日 平成24年度臨時総会(1階大ホール)

- 9日 第1回「震災の記録」編纂委員会(会長室)
- 10日 仙台工業高等学校【土木科】現場実習(～12日まで)(各現場)
- 10日 仙台工業高等学校【建築科】インターンシップ(～12日まで)(各現場)
- 13日 第3回総務委員会並びに常任理事会(2階会議室)
- 18日 フォーラム:がんばろう!東北(山形市・ホテルメトロポリタン山形)
- 27日 第7回正副会長・土木・建築・舗装委員長会議(会長室)
- 27日 第122回理事会(4階第3会議室)
- 31日 重機誘導員能力向上研修(安全指導員・事務局)(奥田建設)

### 8月

- 7日 損壊家屋解体撤去班「運営会議並びに災害防止協議会」合同会議(2階会議室)
- 9日 第8回正副会長・土木・建築・舗装委員長会議(会長室)
- 22日 第9回正副会長・土木・建築・舗装委員長会議(会長室)
- 28日 仙台市より東日本大震災災害復旧活動等における感謝状贈呈式(仙台市役所3階第一応接室)
- 28日 平成23年度施工仙台市優良建設工事表彰(仙台市役所8階ホール)
- 31日 労務・安全管理委員会・安全指導員合同会議(7階第3会議室)

### 9月

- 3日 第2回「震災の記録」編纂委員会(2階会議室)
- 5日 「東日本大震災」復旧・復興安全総決起大会(メトロポリタン仙台)



# 労働災害ゼロ誓う

## 12年度安全大会

仙台建設業協会の2012年度安全大会が10月2日、仙台市の宮城県建設産業会館で開かれました。当日は会員など約130人が参加し、安全意識の高揚を図りました。

初めに、河合正広会長があいさつに立ち、「従業員は会社にとって大切な人材であり、宝です。従業員が心身ともに健康であることが大切です」と強調しました。その上で、「今後、復旧・復興関連の工事がさらに増加するので、労働災害防止にはより一層の配慮が必要です。事故を起こさない決意で、未然防止へ向けて協力していきましよう」と呼び掛けました。



また、仙台労働基準監督署の丸山陽一署長が、現場の管理体制確認、安全な作業環境構築に最大限努めることを要請しました。そして、



て、「心と身体を十分大事にして復興に貢献してください。私たちも、被災地の現状をよく理解した上で、復旧・復興を安全に成し遂げる環境を整えていきます」と話しました。

委員長の①墜落・転落災害②建設機械・クレーン等災害③倒壊・崩壊災害に加入して交通安全の防止にも力を入れていくとした安全の誓いを読み上げ、全員で労働災害ゼロを誓いました。

その後、仙台労働基準監督署の高橋俊幸安全衛生課長が「建設業における労働災害防止対策」について講話を行いました。また、安全研修では、宮城県産業保健推進センター（メンタルヘルス対策促進員の西嶋淑子氏が「職場におけるメンタルヘルス」をテーマに講演しました。

## 震災復旧・復興への貢献で 仙台市から感謝状

東日本大震災の復旧・復興に当たり、道路啓開など応援協力活動に多大な貢献があったとして、仙台建設業協会が仙台市から感謝状を贈呈されました。

8月28日に仙台市役所で行われた贈呈式では、冒頭、奥山恵美子市長が「仙台市の復興は先陣を切るスピードで進んでいます。これも皆さんの縁の下での力持ちとしての支えのおかげであり、心から感謝しています。これからもともに仙台のまちを盛り立てていきましょう」と話し、仙建協をはじめとする各団体に感謝状を手渡しました。

その後、受贈者を代表して仙建協の河合

正広会長が「未曾有の大災害の中、1日も早い復興を願って各団体が懸命に活動して頂きました。被災地の中でもいち早い復旧作業が進んでいることは、官民一体で取り組んだ総合力のたまものです。今後も仙台市と連携、協力して復旧・復興に貢献していきます」とあいさつし、復興への決意を新たにしました。



## 仙建協だより

### 行事報告 (2012年4月～11月)

#### 4月

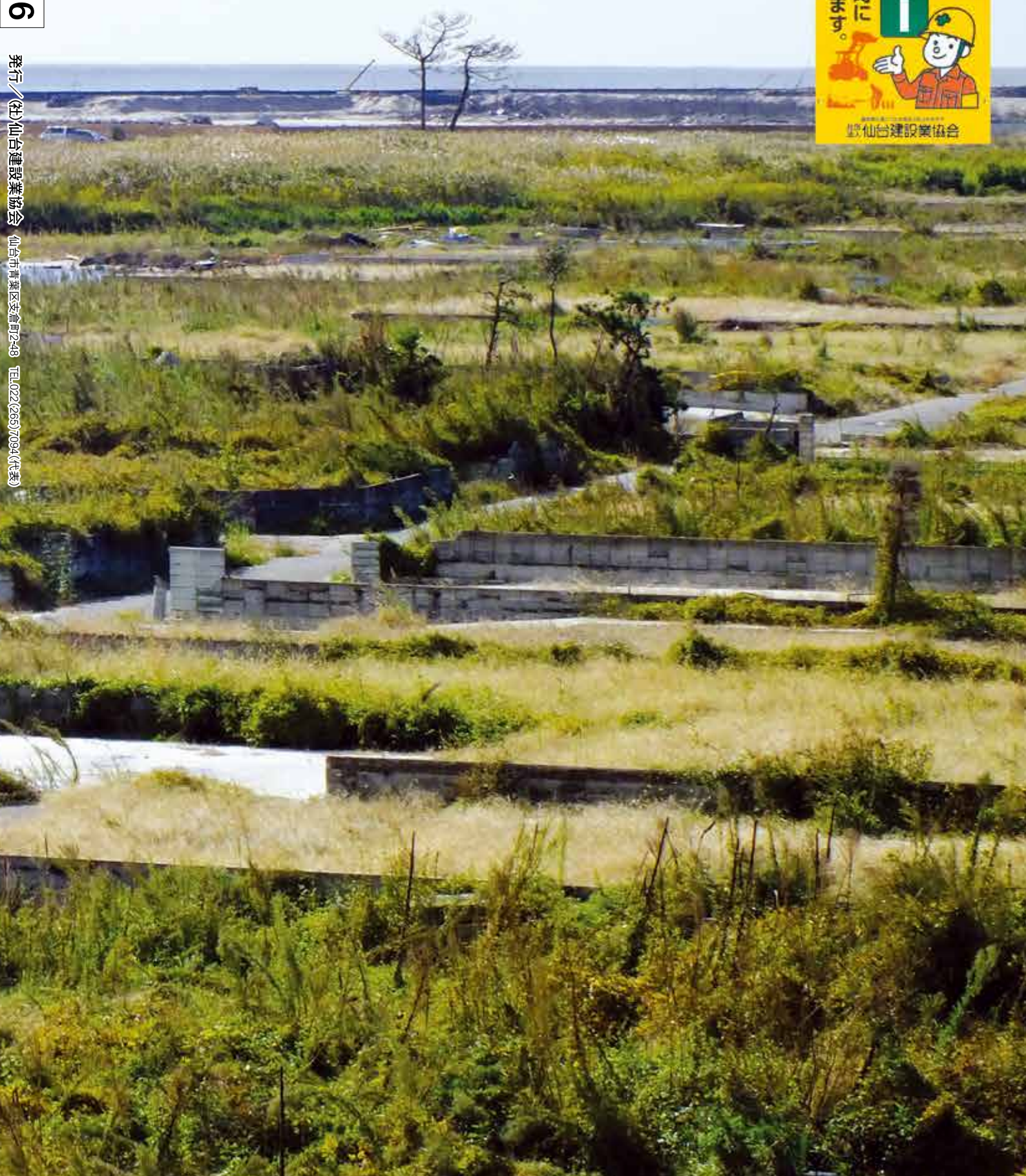
- 4日 第1回正副会長・土木・建築・舗装委員長会議(会長室)
- 9日 第1回正副会長会議(会長室)
- 9日 総務委員会(2階会議室)
- 10日 第120回理事会(4階第2・3会議室)
- 12・ 損壊家屋解体撤去工事現場の安全点検集中パトロール(解体現場)
- 13日
- 18日 第2回正副会長・土木・建築・舗装委員長会議(会長室)
- 24日 平成24年度定時総会(江陽グランドホテル)
- 24日 第121回理事会(江陽グランドホテル)
- 27日 損壊家屋解体撤去班「運営会議並びに災害防止協議会」合同会議(2階会議室)

#### 5月

- 2日 第3回正副会長・土木・建築・舗装委員長会議(会長室)
- 15日 第2回総務委員会並びに常任理事会(2階会議室)
- 21日 第1回舗装委員会(会長室)
- 23日 仙台労働基準監督署・仙建協労働災害防止連絡協議会幹事会(会長室)

- 23日 平成24年度仙台市水防訓練…河北建設(太白区・重点訓練地区)
- 25日 第1回労務・安全管理委員会並びに労務・安全管理委員会安全指導委員会 合同会議(2階会議室)
- 25日 損壊家屋解体撤去班「運営会議並びに災害防止協議会」合同会議(2階会議室)
- 28日 第1回建築委員会(会長室)
- 29日 第1回土木委員会(会長室)
- 6月
- 5日 第1回環境福祉委員会(会長室)
- 7日 第1回広報委員会(会長室)
- 12日 第4回正副会長・土木・建築・舗装委員長会議(会長室)
- 21日 第20回定期会議並びに各社安全衛生担当者全体研修会(1階大ホール)
- 25日 第5回正副会長・土木・建築・舗装委員長会議(会長室)
- 28日 損壊家屋解体撤去班「運営会議並びに災害防止協議会」合同会議(2階会議室)
- 7月
- 4日 第6回正副会長・土木・建築・舗装委員長会議(会長室)
- 5日 仙台市環境局震災廃棄物対策事業安全協議会安全衛生パトロール(解体現場)





街の防災  
サポーター

この建設現場は、大地震時に  
地域の救助活動を支援します。



仙台建設業協会